

# CentreCOM®FS121TX・FS122FST・FS123FSC リリースノート

CentreCOM FS121TX・FS122FST・FS123FSCをご購入いただき、誠にありがとうございます。この文書は、「CentreCOM FS121TX・FS122FST・FS123FSC ユーザーマニュアル」の内容を補足するものです。

製品の機能アップに伴い、ユーザーマニュアルの内容を以下のように変更致します。

## <p1-1の中ほど>

このシリーズの製品は、接続できるメディアの違いによって、下記の3種類があります。どのポートもFUNCTIONスイッチによって全2重/半2重の切り替えが可能です。RJ-45ポートは100BASE-TX・10BASE-Tの両方をサポートしており、通信(キャリア)速度を検出することによって、自動的に10Mbps/100Mbpsの切り替えが行われます。



このシリーズの製品は、接続できるメディアの違いによって、下記の3種類があります。どのポートもFUNCTIONスイッチによって全2重/半2重の切り替えが可能です。RJ-45ポートはAuto-Negotiation機能をサポートしており、接続先に合わせて自動的に10M/100M・Full/Halfの切り替えが行われます。

## <p1-4の FUNCTIONボタン >

- ・ 各ポートの全2重/半2重の設定
- 
- ・ 各ポートのAuto-Nego/全2重/半2重の設定

## <p1-5の FULL/HALF>

各ポートの全2重/半2重を切り替えるモードになっていることを示すランプです。このランプは、PORT STATUSのFULLランプと連動しています。



各ポートのAuto-Nego/全2重/半2重を切り替えるモードになっていることを示すランプです。このランプは、PORT STATUSのFULLランプと連動しています。

## <p1-6の ポート1 の後半>

このポートはデフォルトでは半2重で動作します。全2重で動作させるためにはFUNCTIONボタンを使用し、全2重に設定しなければなりません(オートネゴシエーションはサポートしていません)。10Mbpsと100Mbpsの切り替えは自動的に行われます。



このポートはデフォルトではAuto-Negotiationで動作します。半2重または全2重固定で動作させるためには、FUNCTIONボタンを使用して、設定しなければなりません。半2重または全2重固定で動作させている場合でも、10Mbpsと100Mbpsの切り替えは自動的に行われます。

## <p1-7の ポート2 (FS122FST・FS123FSC) の後半>

このポートはデフォルトでは半2重で動作します。全2重で動作させるためにはFUNCTIONボタンを使用し、全2重に設定しなければなりません。



このポートはデフォルトでは全2重で動作します。半2重で動作させるためにはFUNCTIONボタンを使用し、半2重に設定しなければなりません。

<p3-2の[3] ~ [6]>

- [3] 100Mbpsまたは10Mbpsのハブ(リピーター)とカスケード接続する場合、通信モードを半2重(HALF)に設定してください<sup>+3</sup>。本製品のMDIポートとハブのポート(MDI-X)<sup>+4</sup>をストレート・ツイストペアケーブル<sup>+2</sup>で接続してください。
- [4] 100Mbpsまたは10Mbpsの他のスイッチとカスケード接続<sup>+4</sup>する場合、本製品に設定する通信モード(全2重・半2重)は、接続相手のスイッチと同じ通信モードを設定してください<sup>+3</sup>。一般的にスイッチと呼ばれる装置は全2重をサポートしているので、通信帯域を2倍にするために全2重に設定するのが普通です(接続相手のスイッチを全2重に設定してください)。本製品のMDIポートと他のスイッチのポート(MDI-X)<sup>+1</sup>をストレート・ツイストペアケーブル<sup>+2</sup>で接続してください。
- [5] パソコンなどのデータ端末と接続する場合、本製品に設定する通信モード(全2重・半2重)は、パソコン(に内蔵されているLANアダプタ)と同じ通信モードを設定してください<sup>+3</sup>。本製品のMDI-Xポートとパソコンのポート(MDI)<sup>+1</sup>をストレート・ツイストペアケーブル<sup>+2</sup>で接続してください。
- [6] 100Mbps/10Mbpsの切り替えは、キャリアを検出することによって、本製品が自動的にを行います。ユーザーが設定する個所はありません。



- [3] 本製品は、Auto-Negotiationをサポートしているため、通常は通信モードの設定は必要ありませんが、接続先によって通信モードを固定することも可能です。
- [a] 100Mbpsまたは10Mbpsの他のAuto-Negotiationをサポートしていないスイッチとカスケード接続<sup>+4</sup>する場合、本製品に設定する通信モード(全2重・半2重)は、接続相手のスイッチと同じ通信モードを設定してください<sup>+3</sup>。一般的にスイッチと呼ばれる装置は全2重をサポートしているので、通信帯域を2倍にするために全2重に設定するのが普通です(接続相手のスイッチを全2重に設定してください)。本製品のMDIポートと他のスイッチのポート(MDI-X)<sup>+1</sup>をストレート・ツイストペアケーブル<sup>+2</sup>で接続してください。
- [b] パソコンなどのデータ端末と接続する場合、本製品に設定する通信モード(全2重・半2重)は、パソコン(に内蔵されているLANアダプタ)と同じ通信モードを設定してください<sup>+3</sup>。本製品のMDI-Xポートとパソコンのポート(MDI)<sup>+1</sup>をストレート・ツイストペアケーブル<sup>+2</sup>で接続してください。
- [c] 通信モードを固定している場合でも、100Mbps/10Mbpsの切り替えは、キャリアを検出することによって、本製品が自動的にを行います。ユーザーが設定する個所はありません。

<p3-2の†3の後半>

設定手順は、「4.3 全2重・半2重の設定」をご覧ください(本製品はオートネゴシエーションをサポートしていません)。



設定手順は、「4.3 全2重・半2重の設定」をご覧ください。

<p5-2の中ほど>

MDI/MDI-X切り替えスイッチの設定は間違っていますか? ⇨ MDI/MDI-Xは間違っていますか?

<pA-5の中ほど>

通信モード 全二重または半二重をFUNCTIONスイッチで切り替え(オートネゴシエーションはサポートしていません)



[通信モード] Auto-Negotiationによる自動設定およびFUNCTIONスイッチによる全2重/半2重の設定(10/100Mは自動検出)が可能



<p4-5すべて>

下記のとおり変更になります。

## 4.3 全2重・半2重の設定

FUNCTIONボタンによって、ポート1、ポート2の通信モードを個別に設定することができます。FULLランプが点滅している場合はAuto-Negotiation、消灯している場合は半2重、点灯している場合は全2重となり、上側のFULLランプがポート1、下側のFULLランプがポート2の状態を示します。

- (1) FUNCTIONボタンを長く押ししてください。TRAFFIC LEVELランプが点滅します (電源を投入してから、この節の操作を実行したことがあり、例えばフォワーディング率を表示するように設定されている場合は、FORWARDINGのランプが点滅します)<sup>†1</sup>。
- (2) FUNCTIONボタンを4回短く押し、FULL/HALFランプを点滅状態にしてください。
- (3) FUNCTIONボタンを長く押ししてください。FULL/HALFランプが点灯状態に変わり、上側のLINKランプ (ポート1)とFULLランプが点滅します (Auto-Negotiation)。
- (4) ポート1を半2重に設定する場合は、短く押ししてFULLランプ (1) を消灯状態にしてください<sup>†2</sup>。全2重に設定する場合は、FULLランプ (1) を点灯状態にしてください。FULL/HALFランプが点灯している状態では、FUNCTIONボタンを短く繰り返して押すことによって、FULLランプ (1) が点滅、消灯、点灯を繰り返します。
- (5) FULLランプ (1) でポート1の通信モードを選択したら、FUNCTIONボタンを長く押ししてください。FULLランプ (1) の状態が確定し、LINKランプ (ポート2) が点滅を始めます。
- (6) ポート2に対しても (4) と同様の操作を行ってください。  
ただし、FS122FST/123FSCのポート2はAuto-Negotiation機能 (FULLランプの点滅) はありません。
- (7) FULLランプ (2) でポート2の通信モードを選択したら、FUNCTIONボタンを長く押ししてください。FULLランプ (2) の状態が確定し、本製品は「設定モード」から「運用モード」に戻ります。

---

†1 10秒以上FUNCTIONボタンが押されないとき、本製品は自動的に「設定モード」から「運用モード」に戻ってしまいます。ご注意ください。

†2 接続相手がAuto-Negotiationをサポートしないスイッチであり、全2重で動作するように設定されている場合にだけ、本製品のポートを全2重に設定してください。

以上